

平成29年10月13日

西部農林振興センター浜田農業普及部

標 題 新たな施設であんぽ柿30万個加工開始

(ダイジェスト)

J Aしまね いわみ中央地区本部は、西部地区の拠点となる一新されたあんぽ柿加工施設において、先ほど加工を開始しました。

今年から新たな方式で加工する島根県統一あんぽ柿“島根あんぽ”を含め30万個を加工する計画となっています。

J Aしまね いわみ中央地区本部は、昨年度事業であんぽ柿30万個加工をめざして西条柿貯蔵用冷蔵庫と加工・乾燥・調整施設を建設したところです。従来からの床暖房式乾燥機で乾燥するやや水分少なめの“柿くうきやく”10万個と新たに導入した棚式乾燥機で乾燥する水分やや多めの“島根あんぽ”（今年から新たに県統一あんぽ柿として売り出す予定）20万個を加工販売する計画となっています。

さる10月11日に、作業員14名を配置し本格的に皮剥を開始しました。“柿くうきやく”は1日1,600個、“島根あんぽ”は1日3,000個皮剥をする必要がありますが、今回は“島根あんぽ”用に3000個の皮剥を行いました。作業する方々は、初めて機械での皮剥を行うので最初は時間がかかっていましたが、徐々に慣れてきたようでした。

11月下旬からは冷蔵庫で貯蔵した柿を加工し、12月20日すぎまで加工を行う予定です。

浜田農業普及部としても、技術普及部の協力により他産地からの供給による原料確保、原料柿の安定貯蔵、作業効率向上、衛生管理等について支援することとしています。



皮剥の様子